

大学の世界展開力強化事業 H28取組概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域での地球温暖化や大規模災害等の地球規模の課題に対して、実効性のある対策の研究や開発が可能な人材を育成することで、今後、地球規模で生じてくと予測される諸問題の解決に資する。

【構想の概要】

従来の学術領域を有機的に接合し、アジアで生じると予測される地球規模の諸問題の解決に関する教育を行う。ASEAN大学連合(AUN)と連携してコンソーシアムを形成し、ダブルディグリープログラム、シングルディグリープログラム、サマースクールからなる多層的な交流プログラムを実施する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

① 単位互換可能な講義群の開発

「人間の安全保障」共通基礎科目と、環境・エネルギー、食糧・水、パブリックヘルスなど多様な専門科目で構成される単位互換可能な修士課程向け講義群の開発を行う。

② ダブルディグリープログラムの実施

AUN加盟コア大学の5校およびカセサート大学(AUN非加盟)との間で、修士課程のダブルディグリープログラム(以下DDP)を実施し、相互交流を図る。

③ 共同指導型シングルディグリープログラムの実施

ダブルディグリーを実施する5大学を含むAUN加盟大学全30大学の修士学生を対象に、共同指導型シングルディグリープログラム(以下SDP)を実施し、学生を受け入れる。

④ サマースクールの実施

修士課程のDDPやSDPへの参加を促進することを目的として、学部生向けのサマースクール(以下SS)を開催し、相互交流を図る。

(SS受入—日本文化研修)



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(SS派遣—カンボジアにて)



① 交流プログラムについて

AUN加盟大学およびカセサート大学(以下AUN加盟大学等)との間で、修士課程のDDP、SDP、および学部生向けのSSを展開する。

② プログラムの開始に向けた準備状況

平成25年度までに、農学分野でインドネシア・ガジャマダ大学(UGM)と、エネルギー分野でインドネシア・バンドン工科大学(ITB)およびマレーシア・マラヤ大学(UM)とダブルディグリープログラムを開始した。平成26年度には、農学分野でタイ・カセサート大学と、公衆衛生分野でUMおよびタイ・チュロンコン大学(CU)とダブルディグリープログラムを開始した。平成27年度にはエネルギー分野においてCUと、平成28年度には農学分野でITBとダブルディグリープログラムを開始した。さらに、シングルディグリープログラム参加学生の募集・選抜を行い、平成26年度に5名、平成27年度に5名、平成8年度に1名を受け入れた。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

① 日本人学生の派遣

平成28年度、UGM、UM、CU、カセサート大学にDDP参加学生を、ヤンゴン大学、カンボジア工科大学、カセサート大学にSS参加学生を派遣した。

② 外国人留学生の受入れ

AUN加盟大学からDDP、SDP、SSで学生を受け入れた。平成28年度は、DDPではUGM、ITB、カセサート大学、SSでは6月にカセサート大学、平成29年1月にAUN加盟大学の学生を受け入れた。SDP参加学生の受入も実施した。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	30	18	31	36	29
学生の受入	0	49	43	47	50

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

① 学生の海外留学を促進するための環境整備

派遣先となる大学の情報を提供するウェブサイトを開設し、十分な情報提供を行うことで、適切な時期に留学準備を開始できるようにしている。また、学生のニーズに合った留学先の開拓を進めているほか、学内での留学説明会を継続的に開催している。

② 留学生の受入を促進するための環境整備

京都大学側の各専攻に関する情報を提供するウェブサイトを開設し、関係大学に対し、プログラムの内容、シラバス、単位の認定方法などの十分な情報提供を行っている。このほか、留学生に対する相談体制や宿舎への入居を支援する体制など、既に整備されている仕組みを活用している。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

① 協定の締結 本学エネルギー科学研究科がチュロンコン大学とプログラム・ディスクリプションを締結し、「エネルギーと環境」分野でのダブルディグリープログラムを開始した。

② 情報の公開、成果の普及

人間の安全保障開発連携教育ユニットのウェブサイトとフェイスブックで学生募集を含む情報公開と成果報告を行っている。成果報告は本学のウェブサイトにて、学生募集は本学ASEANセンターおよびAUN事務局のウェブサイトとフェイスブックでも公開している。2016年度末には、5年間の事業をまとめたFinal Reportを発行した。